

アクティブ・ラーニングとICT活用に 関する一考察

— 世界史の授業において —

地歴・公民科 塚田 章裕

(要旨) 世界史の授業にアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行い、どのような効果があったか分析する。また、アクティブ・ラーニングを効果的に実践するために、ICTを活用し、その効果についても分析する。

キーワード：アクティブ・ラーニング ICT 世界史

1 はじめに

ここ数年、アクティブ・ラーニングという言葉がよく使われている。確かに、受験のためとはいえ、知識重視の講義型の授業は、生徒の反応が年々悪くなっている。また、次期学習指導要領の改訂ポイントとして『『アクティブ・ラーニング』の視点から学習過程を質的に改善することを目指す。』とあるので、アクティブ・ラーニングを取り入れることは、もう必須となっている。

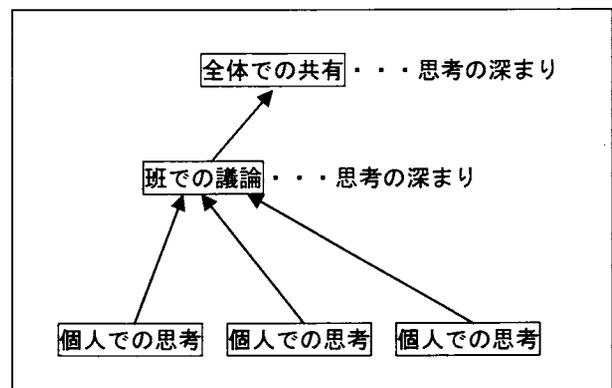


図1 段階的思考

2 アクティブ・ラーニング型の授業の構想

次のようなアクティブ・ラーニング型の授業を考えてみた。まず、問いを与え、その問いに関して、生徒個人で考えさせ、それから4人程度のグループ(班)で話し合わせて、意見をまとめる。そして最後にグループの意見を出させて、教員がコメントを述べる。図示すると図1のようになる。

個人で考えさせるだけではなく、その考えを持ち寄り、グループで話し合うことで、自分では気づかなかった考え方を知ることになって、思考がより深まる。さらにグループの代表が発表することで、新たな考え方を知り、同様に思考が深まっていく。

3 アクティブ・ラーニング型の授業の展開

下記のような時間配分で、1時間の授業を組み立ててみた。

- ・教員による講義 (25分)
- ・個人で問いについて考える (5分)
- ・グループ(班)で共有 (10分)

- ・班ごとに発表, 教員のコメント (5分)
- ・感想記入 (5分)

4 主な問い

生徒に考えさせるための問いを考えることは非常に難しい。簡単に答えられるような問いならば, 考えさせることにならないからである。1学期の授業において, 7回 (×3クラス) の授業で, 下記のような問いを設定した。

- ・産業革命によって, 人々の生活はどのように変わったか?
- ・憲法 (1791年憲法) の制定は, どのような意義を持つか?
- ・なぜフランス国民は, ラ=マルセイエーズを国歌として歌うのか?
- ・ナポレオンの支配はヨーロッパに何をもたらしたのか。
- ・ウィーン体制崩壊後のヨーロッパはどのような状況になったか?
- ・19世紀のイギリスはどのような時代であったか?
- ・なぜ, ティエールの臨時政府はパリ=コミューンを徹底的に弾圧したのか?

実際には, 調べればわかるような簡単な問いと合わせて, 2~3問与えた。

5 生徒の感想より

生徒の感想を見ていると, 次のように分類できる。ただ, アクティブ・ラーニング型の授業に起因する感想なのか, 講義を含めての感想なのかは断定できない部分もある。

(1) 歴史的事項に対する率直な感想

例えば, フランス革命の授業での「恐怖政治は怖いと思った」や, 「大規模ではないパリ=コミューンを徹底的に弾圧するのはやりすぎではないか」な

どである。

(2) 知識理解の手助け

「産業革命の背景や人々の生活の変化がどう変わったかわかった。」

この感想から, このような授業スタイルは生徒が知識等の理解の一つとしても考えられることである。教師が一方的に話すというのも一つのスタイルであるが, 一方では自分で考える, 議論することで, より理解しやすいのではないかと考える。

(3) 新たな疑問の発生

「人権宣言では, 自由権や平等権を認めるように書かれているが, 『宣言』というものの効力がどれほどのものなのかがよく分からないので, それらの権利が実際に反映されていたのか知りたい。」

フランス革命における人権宣言や1791年憲法について考えることによってこのような高度な疑問を持ったのではないだろうか。

(4) 考えること自体が楽しい, 意義がある

「今日の問い (パリ=コミューンの問い) は, 人それぞれの考えが出てきてためになった。」

答えがたくさんありすぎて收拾がつかないのも困るが, やはりいろいろな考え方が出てくる答えが望ましいと思う。このような問いをもっと考えていきたい。

6 ICTの活用

1学期の途中から, ロイロノート・スクールという授業支援アプリを実験的に使ってみた。

本校には, iPadが48台あり, 校内での無線LANが整備されている。しかし, 実際にiPadを使用するのは, インターネットによる調べ学習がほとんどであった。せっかくのiPadなのだが, 何か有用なコンテンツがないとあまり意味がないのではないかと思っていた。

そのように考えていた昨年度, ロイロノートというアプリの存在を知った。私がロイロノートの名前

を知ったのは、恥ずかしながら、生徒の発表によってである。昨年度の1年生が総合的な学習の時間における「地域課題研究」の発表で、ある生徒がロイロノートを使って、新しい教育プログラムの可能性を示してみせた。生徒にここまで言われたら、教員としても動かざるを得ない。そこで今年度、無料のお試し期間の3カ月間使用することにした。

他校のアクティブ・ラーニング型の授業を参観した際、グループの考えを、配られた小さなホワイトボードにマジックで書かせていた。この方法は便利であるが、すべての生徒にグループの考えが見えていたかは疑問に思った。

そこで、前述の授業の4回目以降、ロイロノートを使わせてみた。グループに1台iPadを与え、グループの考えをロイロノートに入力させた。そして、その考えをプロジェクタに映し出して、教員がコメントすることにした。クイズ番組のように各班の考えが映し出されると、生徒の反応も良い。気になった答えを複数選択して映し出すこともできる。(図2)

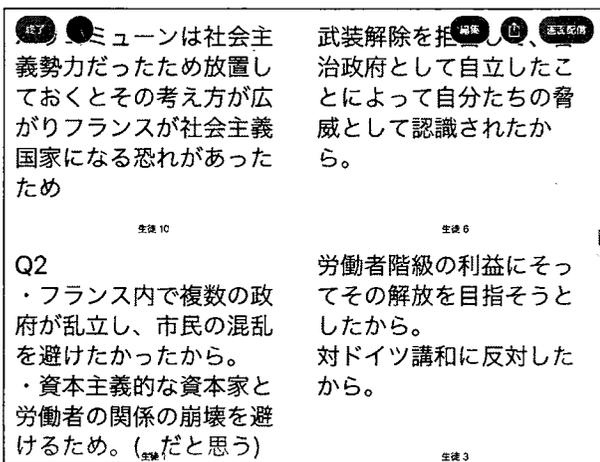


図2 複数の答えを提示 (ロイロノートの画面)

もちろん、生徒の答えを1つずつ提示することもできる。(図3)

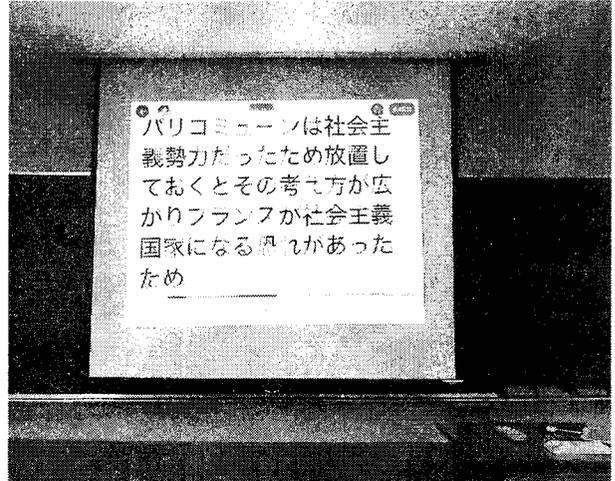


図3 グループの考えをプロジェクタに提示

最初は、入力に少し時間がかかったが、班の中に1人は操作の得意な生徒がいるし、慣れると短時間でできるようになった。

この機能はロイロノートの機能の一部でしかないが、グループ学習においては結構効果的に使えるのではないかと考えている。

7 課題

(1) アクティブ・ラーニング型授業について

当然のことであるが、議論や発表に時間がかかるということがあげられる。前述の時間配分では、50分の授業のうちの25分があてられている(しかも、実際には感想記入を休み時間に行うことが多かった)。1学期においては、2~3時間に1回の割合でこのような授業を行ったが、当然、進度が遅れていく。今年度、講義の内容を少し削減したが、進度は例年より遅れてきた。

もはや、小手先だけの内容の削減では到底追いつかないと考える。教える内容を大胆に精選しないと、アクティブ・ラーニング型の授業を多く取り入れることはできない。

次期学習指導要領では、新科目「歴史総合(仮称)」が設置される。2単位科目なので、今までの世界史Aと日本史Aを単純に織り交ぜるという考えでは、

到底実践できない。今のうちに内容の精選について準備しておかないと、かつての世界史Aの失敗を繰り返すことになると思う。

(2) ICTの活用について

ロイロノートの無料お試し期間は3カ月であった。当然、それ以降利用するときには料金を支払わないといけない。料金に関しては、契約内容によって異なるが、どこからその予算を捻出するか、考えないといけない。新たに導入する場合、これが大きな問題であり、学校全体の理解が必要となる。

さらに、学校全体の理解が得られるということは、多くの授業でiPadが使用されるということであり、授業で使いたい時に使えないことも考えられる。

ただ、時代の流れから考えても、有用なツールであると思うので、どの程度実現できるかはわからないが、現在、複数の教員を巻き込んで、来年度からの本格導入に向けて動き始めている。